

1. 子育て環境の整備について

＜質問＞(1) 保育所入所問題

保育所への入所について、市民から「なかなか入所出来なくて困っている」との声が多い。保育所の待機児童解消についての市の考えを伺いたい。

＜回答＞(イ) 待機児童の解消を目指し、既存保育所の施設整備や幼稚園を活用した保育所の設置などで定員増加を図ってきた。その結果、保育所の定員は、平成26年4月現在で8,420人、5年前の平成21年4月と比較すると515人増加している。

(ロ) 今年度中に施設整備に着手し、平成27年度中に完成を予定している施設により、90人の定員が増加する予定になっている。

(ハ) 保育所への入所を希望している方の切実な思いを重く受け止め、定員の確保方策については、状況を見て計画を前倒しして行うなど、待機児童の解消に努め、安心できる子育て環境を作っていくたい。

2. 人口減少対策について

＜質問＞(1) 婚活支援事業の取り組み

人口減少対策において、独身男女の婚活活動を行政が支援していくことは必要である。本市の未婚率の状況、婚活に対する現在の県や市の取り組み、今後の展望について伺いたい。

＜答弁＞(イ) 長崎市の未婚率は昭和60年以降男女とも一貫して上昇を続けている。平成22年度国勢調査において、15才以上49才未満の未婚率は男性53.1%、女性48.0%で、全国男性52.0%、女性42.7%を上回っている状況である。

(ロ) 長崎県では、企業・店舗等が開催するパーティーなど、イベントについて情報発信する「ながさきめぐりあい事業」を実施しており、平成25年度は425回のイベントを開催し、延べ6,568人が参加し551組のカップルが成立している。平成27年度からは「婚活サポートセンター」を立ち上げ、縁結び隊の活動強化を図る予定。

(ハ) 長崎市においては、南部合併五地区の活性化を目的とした「五活祭」において、独身男女の出会いを支援する「めぐりあいIN高島」を平成22年度から開催し、これまで延べ379名参加、13組のカップルが成立している。

(ニ) このような中、長崎市においては来年度から新たな取り組みとして、市内の食堂や団体等と意見交換しながら、そこに所属する独身男女の各グループ同志が交流することができる登録制の仕組みを構築し、マッチングを図ることを予定している。

3. 環境行政について

<質問> (1) 生ごみの堆肥化容器の購入費補助事業の検証

購入費補助事業として実施されてきた生ごみ堆肥化について、その効果がどのようなものであったかについてお伺いしたい。

<解答> (イ) 長崎市における平成 25 年度に家庭から排出された燃やせるごみの量は約 78,000 t で、その 3 割が生ごみ約 23,000 t の生ごみが排出されていると推計される。

(ロ) 生ごみ堆肥化容器及び電動式処理機による生ごみの減量効果については、堆肥化容器及び電動式処理機の使用世帯は約 2,300 世帯を推計され、年間約 250 t の生ごみが減量される計算になるが、堆肥化に向かないごみが 2 割程度あるので、約 200 t が減量されているものと考えられる。

(ハ) この 200 t がごみとして排出されていないこととなり、収集に係る経費及び焼却に係る経費を 1 トン当たりの処理コストで換算すると約 800 万円の経費削減になる。

(ニ) 今後もこのようなメリットを積極的に広報周知し、環境に優しい循環型社会形成推進の観点から市民の皆様が生ごみ堆肥化に取り組んでいただけるよう引き続き努力して行きたい。

#### 4. もみじ谷葬祭場のあり方について

<質問> 雲仙市の瑞穂斎苑の環境が整っているという市民の声があったので、視察に行ってみた。敷地が広く庭園の一角に火葬場があるという作りで、とてもいい環境にあった。もみじ谷葬祭場もいい環境の中で故人をもっと心安らかな雰囲気葬送できるよう建替えを検討すべきと考えるが、そのような計画はあるのか。

<答弁> (イ) もみじ谷葬祭場は、大正 10 年 4 月市営火葬場として開設、原爆被害による施設の建替えを経て、昭和 53 年 12 月に老朽化に伴う全面建替えを行った。以来 36 年が経過。平成 18 年度に待合室の改修と増築、駐車場の整備を行い、平成 20 年度には耐震補強工事を実施。利用者の利便性向上と施設の安全確保に努めてきた。

(ロ) 現在の建物が相当年数経過していることや高齢化の進展に伴い、将来的に増加する火葬件数に対応するために葬祭場の今後のあり方について検討を重ねてきた。

(ハ) 検討追程で、火葬が集中する 12 時台から 14 時台の時間帯に玄関ホールなどが火葬炉待ちの会葬者で混雑する状況を最優先に解消すべきとの結論に至り、この状況を改善する為、平成 28 年度から予約制の導入を予定しており、予約システム構築に係る費用を平成 27 年度の当初予算に計上し審議をお願いしているところである。

(ニ) 葬祭場の建替えについては、まず予約制導入後の状況を見極めたうえで、将来的な火葬需要等を想定し建替え場所や施設規模等を含めて総合的に検討したうえで建替えの時期を判断したい。

## 5. 交通対策について

### <質問> (1) 離島航路の確保

伊王島大橋が架橋された後も、島民は市中心部への利便性に優れた航路を利用している。航路の現状、これからの取り組みについてお尋ねしたい。

<答弁> (イ) 長崎～伊王島～高島航路は平成 23 年 3 月の伊王島大橋架橋に伴い、利用者が大きく減少しており、架橋前の平成 22 年度は 33 万 84 人の利用があったが、平成 26 年度は 20 万 94 人と約 4 割減少。平成 24 年度からは、利用者数の減少に伴い、国の補助金も支出されるようになり、現在は国・県・市の補助金により、維持確保に努めている。

(ロ) 利用者の減少に伴う運営収入の減少は続き、補助金が増加していることや、使用船舶が老朽化していることなどから、今年度、再度分科会を開催し、さらなる航路改善方策の検討を行っている。

### <質問> (2) 伊王島のパークアンドウォークサイクルの現状と課題

伊王島灯台を訪れる観光客は、伊王島ふれあい広場駐車場へ一旦車を駐車し、そこから自転車などを利用して、灯台などへ行っているが、途中の県道が狭く、見通しも悪い為、危険な状況が見受けられる。そのよう中、新たなサイクリングロードの整備について地域住民を対象としたアンケートが実施されているが、その結果に対して、将来的にどうしようと考えておられるか伺いたい。

<答弁> (イ) 交通対策については、伊王島大橋開通前に、自治会の代表者等で構成された伊王島行政課題検討会での協議や住民アンケート等による地元住民の意向を踏まえ、道路管理業者等で協議検討して行っている。

(ロ) アンケートの中で、伊王島行政センターにおいて、伊王島地区の地域住民を対象に、海水浴場から伊王島灯台への新たなサイクリングロードの整備に関する質問を追加。パークアンドウォークサイクルを基本としつつも、さらなる安全性の確保が重要ではないかとの意見が出たため、住民の皆様のお考えをお聞きしたものである。

(ハ) アンケートの結果は、回収率 51%で回答者の 53%から「サイクリングロードを整備したほうがよい」との意見をいただいている、主な理由としては「事故の危険性が減ると思うから」「新たな観光ルートの 1 つとなると思うから」との意見があり。しかし 34%の人が「自然を残しておきたいと思うから」等の反対意見も出ている。

(ニ) いずれにしても、伊王島地区の地域振興計画の重点化方針として、「交通環境の整備による観光客の島内周遊の促進」を掲げていることから、道路管理者が警察などの関係機関とも協議しながら、今後もより安全で快適な交通環境の改善に務めていきたと考えている。